

蘇れ海の幸

日本の資源管理最前線

不安と向き合い前進へ



7

【不安⑥減収は埋め合
わえられるか】

視だけでなく、代替収入
が必要だからだ。漁業者

豊富な魚を獲る

資源を増やすため、漁
獲を抑える資源管理。実
際に獲り控える時、漁
業関係者に最も不安なの
は減収だろう。取材中、
関係者から「資源管理は
『自主規制がよい』とい
う人も多いが、実際は上
（行政）から言わなけれ
ばできない。魚の回遊範
囲の漁業規則の統一、監
視だけであらぬ、代替収入
が必要だからだ。漁業者
が豊富な魚を獲る
国によると、1月末時
点で科学的な評価のある
80の資源のうち44%は低
位の（少ない）状態。た
だ、高位のものも24%あ
り、他にも太平洋のマサ
ラも増えつつある資源も
ある。増えた魚を獲り、
高い値で売れば、減収
への備えに何ができる



値の付かないアイゴやイヌズミなども調理法の工夫でおいしく提供する
ゲイト（松井隆宏東京海洋大准教授提供）

た魚種を守りながら水産
業の経営も続けられる。
マイワシの価値を高め
ているのが池下産業（北
海道広尾町）。主力製品
はフィッシュミールなど
養殖関係だが、脂のの
数の漁場で魚を獲り、東
京都内で居酒屋チェーン
を抱えるゲイトは、漁場
の近くに水産加工場も運
営。市場価格の低い魚種
が獲れても、その種に合
った調理方法を開発して
冷凍、都内の飲食店で提
供し、売価をつけている。
沖縄では「環境に優し
いモズク養殖で漁業者が
副収入を得て、漁業管理
が進めやすくなった」
（沖縄県水産海洋技術セ
ンター秋田雄一研究員）
という証言もある。

最大の課題「減収」対策 政策手当てや魚価向上を

「コストを抑える

そもそも「漁獲を抑え
ること」も限らない。
例えば福島県の底引網で
は、昭和後期に、休漁日
を増やしたところ漁獲金
額が上がった。魚の獲れ
過ぎによる値崩れを防い
だためだ。「最初は関係
者の間で（漁獲を控えて
して）経営が成り立つか
など騒ぎになった。1カ
月（休漁の増加を）やっ
てみると、前年同月より
も漁獲が減ったものの、
金額が上がっていた」
（福島県機船底曳網漁業
組合連合会）。高騰した
燃油も無駄遣いせずに済
んだ。

った質の高い個体だけを
えりすべって鮮度管理を
徹底、冷凍の「大口い
わし」として一般的な鮮
魚の2・5倍の価格での
出荷に成功している。
三重県で定置網など複
わせることもできる。



静岡の定置網の自主規制を引っ張る日吉会長
（手前から2人目）

沖縄では、行政が漁船
と申し訳ない」と語る。
水産資源の状態を調査
する場面がある。これに
ついて同県の漁業者、柳
田一平氏は「給料がつく
のでありがたい。このよ
うに、資源を守る活動に
お金がつくのは大切」と
語る。

そして今、減収対策の
核となっているのが国の
漁業収入安定対策事業。
行政に「資源管理計画」
の認定を受けた漁業者が
減収になった時、補償を
行う。クロマグロの資源
管理を強める静岡県定置
漁業協会の日吉直人会長
は「クロマグロ管理は、
通常より手厚い収入安定
対策で国から応援されて
いる。しっかりやらない
（東京支社・太田毅人）